1. 避難者の一員として

災害直後は，被災規模が広範囲に及ぶと公的な支援が届かず，地域住民が主体となって助け合っていかなければなりません。中学生としてできることを考えてみましょう。

知っておこう

▶災害時に発揮された地域の力

災害直後は，救急車がすぐに到着できないことがあります。自分たちもけが人を救う大きな力になることを知っておきましょう。

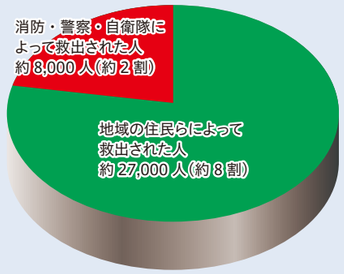
阪神・淡路大震災における助け合い

1995（平成7）年に起こった阪神・淡路大震災では，約6,400人が犠牲となりました。この地震により，建物や電柱が倒壊し，火災もあちこちで発生したため道路が思うように使えず，公共機関による救助・消火活動は時間がかかりました。

そのため，がれきの生き埋めになりながら助かった約35,000人のうち8割近い約27,000人は，近隣の住民たちが助け出しました。

このように，近隣で助け合う地域の力は，災害時も大きな力となり，たくさんの命を救いました。

阪神・淡路大震災における住民による救助の割合



（出典：「大規模地震災害による人的被害の予測」自然災害科学 Vol.16　No.1　河田恵昭）

（写真提供：時事通信）

阪神・淡路大震災の被害

（写真提供：西宮市震災写真情報館）

救助する住民（神戸市灘区）

東日本大震災でも，地域の人たちが津波で取り残された人たちを救助したと聞いたわよ。

災害時にけがをしている人を助ける際は，まず自分たちの安全を確保した上で行いましょう。
そのときに生かせる救助などの方法を知っておきましょう。

防災知識

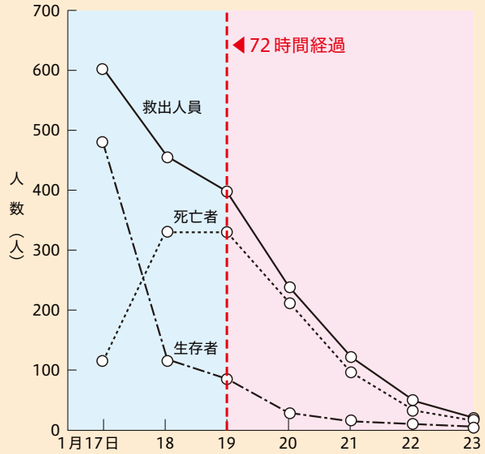
災害発生直後は素早い救助が必要

災害に遭遇したときに，救助の生存率が高いのは72時間までといわれています。

阪神・淡路大震災での神戸市消防局による救助活動では，震災当日に救助された604人のうち生存者は486人（生存率80.5%），2日目に救助された452人のうち生存者は129人（生存率 28.5%），3日目に救助された408人のうち生存者は89人(生存率 21.8%)でした。

しかし，震災から72時間経過すると生存率は5.9%，5日目には5.8%と，生存率が激減しました。

阪神・淡路大震災における時間の経過と生存者等の推移



（出典:近未来社「都市大災害ー阪神・淡路大震災に学ぶ」河田恵昭著）

確かめよう

▶命をつなぐAED（自動体外式除細動器）の設置場所

災害時の救助には，AED（自動体外式除細動器）が必要なことがあります。自分の住む地域のどこに設置されているか確認しておきましょう。

倒れている人を見つけ，呼びかけても反応がない場合，心室細動による心臓や呼吸の停止が考えられます。このような場合はできるだけ早く，心臓に電気ショックを与える必要があります。それを医療従事者でなくても行うことができるのが「AED」です。AEDは，コンピュータによって自動的に心室細動かどうかを診断し，適応と判断したら，使い方を音声メッセージで指示してくれます。

AEDは，不特定多数の人が出入りする駅や学校，大型店舗などに設置されています。もしものために，普段からどこにあるか確認しておくとともに，AEDの使用方法をしっかりと覚えておきましょう。

学校や通学路でAEDのある場所を確認しておくといいね。

※AED（自動体外式除細動器）を製造している会社は複数ありますが，使用方法はすべて同じで，アナウンスに従い操作します。